^{令和3年度せつこっこクラブ4月} 「親子で描いてくらべてみよう」

開催結果報告

日 時:令和3年4月29日(木祝)午後2時~4時

参加人数:年中~小学4年生とその保護者 7組14名

参 加 費:500円(材料費) 職 員:長岡、丹野、名和

「せつこっこクラブ」は子どもたちに三岸節子作品や芸術に親しんでもらうため、毎 月1回を目安に開催しているワークショップです。

今回はただいま開催中のコレクション展「静物へのまなざし」で展示されている三岸節子《作品Ⅱ》《作品Ⅲ》と、息子・三岸黄太郎《静物》が、同じ時期(1991年頃)に同じ場所(神奈川県大磯町のアトリエ)で同じモチーフ(瓶)を描いていることから、参加者親子で同じモチーフを描いてみることにしました。



三岸節子《作品Ⅱ》



三岸節子《作品Ⅲ》



三岸黄太郎《静物》 すべて©MIGISHI

はじめに常設展示室で、上記3作品をはじめとするコレクション展「静物へのまなざし」展示作品を鑑賞しました。多くの時間をともに過ごしてきた三 岸親子といえども、その作風には大きな違いがあります。ダイナミックで力強い母・節子と、優しく穏やかな息子・黄太郎。まずは実際に作品を観て、その違いを感じていただきました。



つぎに実習展示室に移動し、いよいよ親子で描いてみます。ぬいぐるみや小物など、あらかじめご自宅から描きたいものをお持ちいただき、幅約1メートルの横長の紙に親子で横並びにそれぞれ描き込んでいきました。できるだけお互いの絵を見ないよう、2人の間には目隠しの衝立を設置しました。ときどき隣を覗き見してみると、すでに随分と違いが表れているようです。





できあがった作品がこちら。三岸親子と同じように、同じときに同じ場所で同じモチーフを描いても、自然と違いがにじみ出るのがよく分かります。その「違い」は「絵の上手下手」ではなく、描いた人の「個性」。今回のせつこっこクラブでは、互いの個性の違いを楽しんでいただくともに、それぞれの個性を尊重しながら1つの作品をともに作り上げる喜びを感じていただきました。







今後も当館では小さなお子さんでも気軽に楽しく芸術に触れられ、かつ子どもたちの 自由な発想を刺激するような企画を実施していきたいと思います。

(学芸員 長岡昌夫)